

The Akita University Post

Wednesday, April 20, 2009 第8号

AUPでは、カメラマンを募集しています。
連絡先：aup@live.jp



発行 AUP 秋田大学報道局
主筆 三宅朝子
編集デスク 田代周祐



PP fram
5/9 sat.ライブ開催決定
@Club SWINDLE



傷口を縫合する実技の様子。器具の扱いにも真剣だ。(=拠点センターアルヴェ内にて)

医療系サークルMedicA

2008年7月に結成された医療系サークルMedicAは、当時まだ1年生だった秋田医学科坂本祥さん、山崎圭さん、大淵佳祐さん、登米慧さん、今泉ちひ

医師目指し、志高く。

ろさんの学生5人によって立ち上げられたMedicAは「Medical discussion circle in Akita」の略で、「秋田の医療の討論サークル」という意味だ。

1年生のうちから学びたい。「医療について学びたい」という高いモチベーションをもって入学した彼らだったが、専門的な授業は2年生からだったために、想いだけが手

持無沙汰だった。そこで、1年生から少しでも臨床医療に精通する活動をできないものかと考えサークル発足に至った。

2008年秋に顧問に地域医療を推進している長谷川仁志先生、副顧問にガンサロンの発起者である両谷佳弘先生が就任してからは活動内容も一段と広がりを見せていく。

中でも、長谷川先生の協力で実現した病院見学では、実際に大病院で医師1人に学生1人ついて現場を見学、外来、回診、そして手術までも見せてもらう。小児科で帝王切開の手術を見学した医学科3年生高橋貴一さんは「子供達を助ける仕事を見て嬉しかった」と心境を語る。本来5年生が実習という形で体験できることを、一部ではあるが早い段階で経験できる機会が確立した。

学校ではひと味違う学習をまた、ガンサロンへの参加も活動に盛り込まれた。ガンサロンは秋田県のような患者団体などが一体となって運営されて

いるもので、患者同士が話し合ったり、闘病生活の孤独感を和らげたり、コミュニケーションを図っていく目的で行われている。がん患者に接することがあまりない学生にとって貴重な体験である。医学科3年坂本祥さんは「それぞれにガンを受け止め方が違って、いろいろな人がいる事を再認識した。患者さん一人一人と向き合えるのはとても貴重な体験」と振り返る。

さらにサークルの指針でもある討論も月1回のペースで行われる。「死についてどう思うか?」という討論では牧師さんも呼んで考えを深めた。医学科3年山崎圭さんは「安心して死への準備が出来る。死後の世界」の概念に感動した。将来のためになった」と語る。

医師の卵たちの活動から広がる未来

今日までの歴史がわずか1年とは思えないほどの活動内容や実績がこのサークルには垣間見られる。部長でもある医学科3年大淵佳祐さんは今後について「医学部だけでなく教育学部、工学部、さらには秋大外の学生も一緒に活動して秋田県単位で活動を広げたい」と語る。

熱意を持った学生の取り組みが教授や学外の団体までも巻き込んで独自のサークル活動を展開していく。現在の日本は医師不足が叫ばれている。半面で医療の質も求められている。その中でこうした真摯な取り組みは近い未来にいろいろな形で病に苦しむ人の大きな支えとなることだろう。このような活動が秋田のみならず日本全国に浸透していけばと願う。

春になり、新学期が始まった。道端でアドレス交換している学生。やたら混んでいる食堂。身体測定が行われている。初心忘れのベカ子。の言葉が頭をよぎる。大学の卒業して振り返った時に、何も無かった4年間だった。なんてことにならないようにね。1年生の時、先生が授業であっしやっていた。未だに忘れられない言葉である。当時実感は湧かなかったが、多くの学生を見てきた人間だからこそ言える台詞なのだと感じ、「4年間なんてあっという間だぞ」という、彼の脅し、と私は受け止めた。負けず嫌いの私は4年間の充実を、この日誓った以来、私は自分のコアを探し求めて手当たり次第試してみた。時にはつらいこともあったけれども、どれもやらなければ良かったと思ったことは一度も無い。就職活動のためのネタ作りとか、そんな下心で何かを始めるというわけじゃない。結果それを利用してきたとしても、やはり一番大事なことは自分の小さなキャリアを上げること。言い換えれば成長させること。だと思っ、自分で考えて、始めて、そして壁にぶつかると、これに尽きる。私の周りの友人も、何かにまっすぐ打ち込んでいたり、それで苦労したりしている人ほど魅力的だ。自分の心に素直に従って、体が嫌がることに無理に挑戦しなくなるといい。好きなことだけやってほしい。それが出来るのが大学なのだ。そんな私が先輩へのメッセージ。これも私を輩へもメッセージ。これ、大好きな言葉だ。「人生に失敗はない。あるのは成功か学びか。だとしたら、だ」としたら、挑戦しなきゃ損!

(鎌田 美咲)

以上、がんばれ、新一年生!

入試を巻

える

2009年4月7日火曜日 秋田県民会館にて今年も秋田大学の入学式が行われた。今年度もまだ着慣れないスーツに身を包んだ新入生1328人の不安と期待に満ちた顔がどこか誇らしげであった。

今年は大きく経済が揺れ動いた時期でもあり、受験生の意識傾向は、受験にかけるお金は安く、なるべく地元から近いところで、受験機会はできるだけ少なく、略して、安・近・少、という言葉で表わされると思われる。

今年の受験者倍率は、各学部とも去年と違った傾向が見られたと聞く。受験シーズンと重なった未曾有の経済危機のため、受験生の意識にも変化があったのだろうか。そこで我々AUP秋田大学報道局は、今年の受験者倍率を分析するとともに、実際の声を入学式の会場でインタビューしてみることにした。



今月7日に行われた入学式後の様子。期待と緊張に胸を膨らませた。（=秋田県民会館にて）

志願者倍率から見ると、今年の入試における教育文化、医学、工学資源、各学部の志願者数を去年のもの比べてみて、すると教育文化学部の志願者数の伸びが顕著であることがわかった。同学部

は過去数年の入学者数のデータを比べても東北地方出身の学生が多く、地元志向の高い学部である。すなわち、今年志願者が急増した理由としては、昨今の経済状況から例年の傾向に、層の相重がかかったためともいえる。一方医学部の志願者は去年に比べてだいぶ減っている。その原因の一つに日赤看護大卒（4年制）の影響があるとみられている。工学資源学部については志願者が少し増えただけであった。

新入生の声

出身が一番多かったのは東北地方で今回インタビュした24人中15人がそう答えた。そこで過去の出身別のデータを見比べてみたところやはり東北地方出身者が一番多くなっている。これは今年の入試の状況に即した結果となつている。次に、今年の受験校数の質問に対しては、24人中12人の新入生が「一校だけに絞って受験した」と答えた。その理由として多くの学生が「学力的な理由もあるが、経済的に言っても、県内の地元あるいは自宅から近い」と語った。ここでも今年の新入生が地元志向であると言つて一面を知ることができた。

大学が出来ること

新入生がこの秋田大学を選んだ理由は、善かれ悪かれ様々あるだろう。そこで彼らに対し、大学は何が出来るだろう。この大学に魅力を持ち、学生が誇りを持てるような大学作りを我々はしていかなければならないのではないだろうか。

（工藤 翔吾）

「平和」とは何か。

日本と世界の現状について考える



イスラエルについて語るガイさん。話を聞く学生も真剣そのものだ。（=右下写真とともに、学生自習室にて）

イスラエルの高校生を招き、「平和」をテーマに取り扱ったディスカッションが8日、校内の一室で行われた。話をきかせてくれたのは、ガイ・ホドさん（18歳）とシャイナ・マイルさん（17歳）。日本のコンピュータグラフィック、ファッションに関心をもち、日本の大学進学を希望する学生たち。ここでお二人は日本とは全く異なる、イスラエルの現状を語ってくれた。現在多くの隣国との紛争、パレスチナとの問題を抱えているイスラエルでは、男女共18歳になると軍隊に入ることが義務づけられている。男子は3年、女子は2年入隊するのだが、ガイさんは二つの理由から入隊を拒否し、それが認められたという。第一の理由は、ガイさんが芸術に生きたいと真摯に願い、その思いが戦場に向かうこととは合わないということ。軍隊には実際の戦場で戦うこと以外に、軍部の秘書やキャンプでコピーを入れるだけの仕事に従事する人もいるのだが、ガイさんのアティリスト志向とは相反するものがある。第二の理由は宗教の問題である。イスラエルではユダヤ教が社会制度を規定し、中でも超正統派ユダ



ヤ教徒が強力な権力を持っている。何人もの子供を産み、徴兵制も免れ、ユダヤ教を学ぶことに一生を費やす。そんな特別扱いされている人々を守るために戦場に赴くことは受け入れられないとし、ガイさんは入隊を拒否した。実際ガイさんの家族はヨーロッパ出身（アッシュケナジ・ユダヤと呼ばれる）で、両親の世代からイスラエルで生まれているユダヤ人ではあるが、信仰の厚いユダヤ教徒ではない。度重なるシリア側からのロケット攻撃、今も続くガザからのミサイル攻撃を受け、国民は神経が麻痺しているような状況である。と彼らは述べる。紛争が延々と続く中で、イスラエルの国家、国民共にますます閉鎖的となり開き直っていく。ガスマスクもアート作品に変えてみせたり、ミサイル警告をもジョークの対象として笑い飛ばしているお二人だが、そのような国で学び、生きていくことに疑問を抱えているとも語った。

（菊地 史江）

秋田市でファッションショー開催



開演直後の室内の様子。この日、秋田市立体育館が大きな拍手と声援で沸いた。

3月13日に秋田市立体育館で「AKITA Fashion Fes 2009 - ティース & ガールズコレクション」が開催された。秋田県本荘市出身でモデルの加藤夏希さんを始めとする人気モデルが多数出演した。今回モデル達が身に付けた服やアクセサリーはすべて秋田で入手可能なブランドの商品で、地元ファッションビルが協賛している。この日、会場を訪れた観客は午後6時開演1時間以上前から列を作っていた。客層はやはり十代、二十代の女性が多かったが、中には小学生や男子学生、お孫さんと来られた老人の方など幅広い。

開演直後、今人気絶頂のタレントEmisonoが登場すると会場からは歓喜の声が沸きあがった。全員立ち上がり、中には飛び跳ねて喜んだり、手を振る人の姿もみられた。

大勢の秋田県民が注目したこのファッションフェスに地元モデルとして秋田大学の学生もショーに参加していた。

モデルに

秋大生も参加

た。去年のミス秋大の大澤珠世さん、準ミス秋大の丹羽順子さん、升屋彩子さんである。教育学部国際言語文化課程の升屋さんは「モデルの仕事だけではなく、本物のモデルの着脱衣の補助の仕事もさせてもらった。休む暇もなかったけど、現場を見て色んなことを学べた。終わった後は達成感でいっぱい」と心境を語る。

会場の観客の中に秋大生もちらほら見られた。同じ大学の友達がショーに出演し活躍しているのを間近でみた人間環境4年の神山徹弥さんは「いつもと全然違って、友達じゃないみたいに見えた。すごいなあと思った」と興奮気味に話した。

このイベントをきっかけに、県外からの刺激を受けた若者が夢をもったり、秋田をもっと好きになって県内にとどまりたいと感じたりといった影響をもたらすことを期待する。そして今回が足がかりとなってさまざまな企画や催し物が秋田を舞台に行われていってほしい。

(鎌田 美咲)



実際に学生が採集に見つけた鉱物コレクションの数々。実際に学生が採集に見つけた鉱物コレクションの数々。実際に学生が採集に見つけた鉱物コレクションの数々。

秋大、鉱物と共に歩む

海外鉱業研究会

工学資源学部 部の前身である鉱山学部では、盛んに鉱山学についての研究がなされ、鉱業博物館があることから、秋田大学は鉱物にゆかりのある大学といえる。

海外鉱業研究会もまた、前身の鉱山学部が存在した時代から活動を行なっているという歴史を持つ。鉱物に対する思い

海外鉱業研究会の主な活動として、鉱山跡の見学や鉱物の採集がある。県内の鉱山や互いに知識を高め

田大特有の鉱物についての研究については関心をもってほしい、という思いがある。「せっかくあるのだから、鉱業博物館にも一度足を運んで、鉱物の魅力を知ってもらいたい。」と代表の業田顕行さんは話す。

先生になって、鉱物のすばらしさを伝えたい。研究会に所属する山内洋行さんには、将来教職に就きたいという夢がある。「私の地元は鉱物が有名です。そこで採られる鉱物を紹介し、生徒に鉱物の素晴らしさを少しでも感じてもらいたい」と話す。また他にも海外へ渡り、金を採掘する仕事に就きたい等、それぞれが将来へのビジョンを持って学習に励んでいることが伝わってきた。「石などに興味がある人は、ぜひ一緒に活動を」と話すように、研究会には鉱物に対する知識として将来どのように携わっていくかを共に語ることができ、そんな仲間たちがいる。

(田代 周祐)

AUP Photo Library.



明日へまっすぐ続け。(報道班 三宅 朝子)

AUP INFORMATION

大学コンソーシアムあきた特別企画
『建築家・東京大学名誉教授 安藤忠雄 講演会』
を開催します。

講師の安藤忠雄先生には、「不況を乗り越える～地方からの発信～」と題して御講演いただきます。地域アイデンティティ・感性を磨く・人間力・学び、このキーワードからおわかりのように、多くの皆さまの参考となる有意義な時間を過ごしていただけるものと思います。つねに自分の力で自由に考え、新しいものを生み出してきた取り組み姿勢とその作品の数々は多くの方から高く賞賛されています。そして各地で行われる講演においても、「私たちに夢と希望、そして光を与えてくれる」と評判です。

先行き不透明なこの時期に、「人間には夢と希望が必要」という講師のメッセージを是非、多くの皆さまに聴講していただきたいとします。

講師 建築家・東京大学名誉教授 安藤 忠雄
日時平成21年5月10日(日)
13:30-15:30<13:00開場>
会場 秋田市文化会館・大ホール(秋田市山王7丁目)
受講料 入場無料<事前申込必要>

秋田大学教育文化学部天文台4月イベント
一月・土星などの観察と天文講演会・天文講座一

内容: 皆既月食について
天体望遠鏡の仕組みと使い方について など

問い合わせ先: 教育文化学部天文台
018-889-2655

AORI さん

あおり / 秋田大学に程近い、美容室69Sを経営するマネージャー。
2003年のオープンから、姉妹で秋田大学生にファッションや遊びの情報を発信してきた。



私は県南出身ですけど、秋田市にもたくさんの通りがあってそれぞれの特色があり、雰囲気がありますよね。中でも手形通りには古くからのお店がたくさんある、本道に長く続けるっていうところは大変なのに、だから情に溢れ

ていて熱い人達があつたとくさんいるという印象があつたのでお店を始めました。お客さんの年齢層はだいたい20、30代、学生さんばかりでもないですけど、やっぱり割目的には多いかな。自分では、ここって他よりも面白いところがイベントの情報が多くあると思うので、来てくれるお客さんに「遊びの情報提供」でもないですけど、情報を発信しています。秋大生でもここからの情報でイベントしている子もいますからね。手形にお店をオープンして6年にもなると、付き合ひの年数が4年とか6年とかの子も出てきました。去年くらいから、お店の中の柱に卒業していく子達がメッセージを書いていってくれるんです。私からの秋大生へのメッセージは、Let's party っとな感じですかね!

(聞き手、写真佐々木志保)

秋田百聞 2

ここからつながる輪

「秋田百聞」は、秋田に縁の深い人々にお話を伺い、秋大生や秋田について考えて頂く企画です。

トに参加してくれる子もいますよ。そうやってどんどん人との繋がりが広がればと思います。でも、やっぱり秋大生には少し大人しい印象はありますね。お店を利用してくれる学生は県外出身の子が多いから、遊ぶところを皆探しているけど見つけられないというのがあるのかな。秋田で探すのは大変なのかなって思います。それでもここから輪が広がって、今度はイベントを主催する側として頑張っていく子もいますからね。手形にお店をオープンして6年にもなると、付き合ひの年数が4年とか6年とかの子も出てきました。去年くらいから、お店の中の柱に卒業していく子達がメッセージを書いていってくれるんです。私からの秋大生へのメッセージは、Let's party っとな感じですかね!



新たな仲間、1024名合格

3月22日、秋田大学入学試験の後期日程合格発表が行われ、計1024名の合格者が発表された。当日は雨模様にも関わらず多くの人が詰めかけ、自分の番で合格番号を照らし合わせる姿が見られた。平成21年度の入学試験はこれが最後となり、合格した者は晴れて4月から秋田大学生としての生活が始まる。(田代 周祐)

新しく始まる秋大生生活に胸を膨らませる姿も見られ、「将来は教員になりたい。」「この4年間で学生生活を終え、社会にでていくこととなる。今、何ができるのか。今しかできないことをがむしやらに取り組み、卒業する時に秋田大学を卒業しようと思った、その思いのような大学生生活を送られるように、一生懸命学び、遊び、多くの人と出会って自分の可能性を拡げられる。そんな風に過ごしてみたい。」

Tシャツプリントがなんと!!

Tシャツ代込みで ~~1,500円~~ **1,070円** (税別)

部活に!!
サークルに!!
学園祭に!!

ズームランド

〒010-0802 秋田県秋田市外瀬川字野村201
TEL.018-867-1941

好きなイラスト・好きな画像をカスタマイズ!
世界に1枚のオリジナルデザインTシャツ!!

★プリントサイズはA5(210×148mm)までとなります。
★プリントしたいデータをお持ちください。
★Tシャツ持ち込みの場合はプリント代500円～(税別)です。

ズームランド 検索

編集後記
今回初めてAUPに携わって、取材をして記事を書く一連のプロセスが身を以て体験できた。実際に取材に行ってみると、考えていた雰囲気とまるで違って戸惑うことになったりして、そこには必死で対策を練る自分が見え、行動を起こすことの難しさ、そして楽しさを知ることが出来て本当に良かった。(工藤 翔吾)